家庭技術・家庭

小学校

昭和五十一年度小学校家庭科の指導の重点は次の四項目である。

一、「家庭」の領域を基盤として「被服」「食物」「すまい」の各領域が総合的に学習できるように指導計画の改善をする。

二、消費者教育を重視する。

三、実践的態度を育成するための指導法について工夫する。

四、施設・設備の整備充実とその活用

以上の点について各校では、すでに努力されていることと思うが、ここでは特に重点事項の一について述べ、今後の工夫改善の参考にしたい。

一の指導計画の改善については、更に四つの小項目を示して努力事項としているが、それぞれについて具体的に述べ工夫改善の手がかりとしたい。

(一) 学習指導要領、小学校指導書家庭編（文部省）や教料書等の研究を深め、各領域の目標をは握し、また、児童の能力・経験・地域の実態を分析し、各領域の指導の目標を明確かつ具体的にする。

このことについては表1のような関連表を作成し検討することによって各領域、五年・六年の目標内容が総合的かつ具体的には握できると思う。

〈表1〉 目標と題材の関連（第5学年被服領域の例）

総括目標	具体目標	題材
(1)日常の身なりの整え方を理解させ，被服の簡単な手入れや修理ができるようにする。 →	ア．日常着の着方について着る順序・整え方などがわかること。 イ．被服のほこりやごみをとる必要がわかり，ブラシなどの使い方ができること。 ウ．ボタン・スナップなどのつけ方を実習することこと。 エ．自分の日常着の整理・整とんのし方を考えること。 オ．ほころびのなおし方を実習すること。	整った身なり：1.身なりの整え方 2.ボタン・スナップのつけ方とほころびの直し方
(2)衛生的な下着の着方を理解させ，簡単な洗たくができるようにする。 →	ア．衛生的な下着のえらび方について，地質・色・形・大きさなどから考えること。 イ．洗たくについて，身じたく，用具の種類と使い方，洗剤の種類・分量用い方，洗たくのしかたがわかり，下着などの洗たくを実習をすること。	下着のせんたく：1．下　着　2．せんたく
(3)布や糸，針を用いて簡単な袋類などを作らせる。 →	ア．使用目的に適した形や大きさ，調和のとれた形を考えること。 イ．製作用具の種類や扱い方がわかること。 ウ．寸法のとり方・決め方・縫いしろの決め方，とり方がわかり，必要な用布の量がわかること。 エ．製作するものの目的や用途に適した布やその他の材料を選び，ととのえること。 オ．縫い方について，なみ縫い，返し縫い，とめ方などができること。 カ．仕事を計画的に手順よく進めること。 キ．製作の楽しさ，製作品を使う喜びを味わうこと。 ク．ミシンの扱い方がわかり，直線縫いができるようにするため，簡単なものをつくること。	便利なふくろ：1.いろいろなふくろ 2.ふくろの作り方 ミシンぬい：1.ミシンの扱い方 2.ぬい方 3.小物作り
学習指導要領及び指導書から		教科書から

このように各領域・各学年ごとに関連表を作成し、総合的に検討することによって、目標と題材の関連が明確となり、どこに重点をおけばよいかが明らかとなり、児童の実態にふさわしい到達目標が設定でき、更に効果的な資料や指導方法も見いだせると考える。

(二) 各領域の関連を分析し、題材の配列・時数の配当等を適切なものとし各領域の関連を図り総合的に学習できるように配慮する。

家庭生活は衣食住の生活が総合されて営まれている。家庭生活に焦点をあてて、学習させる家庭科の指導にあっても衣食住の指導が個々に終わってしまうことのないように「家庭」の領域を基盤として総合されるよう、各領域の関連をじゅうぶん研究して指導することがたいせつである。そのためには、表2のような関連表を作成し、各領域の関連をおさえておくと効果的である。なお消費者教育との関連もあわせておさえるようにする。

〈表2〉 他領域及び消費者教育との関連をおさえる（第5学年被服領域の例）

具体目標	題材	家庭領域との関連	消費者教育との関連	すまい領域との関連
略	整った身なり：1.身なりの整え方 2.ボタン・スナップのつけ方とほころびの直し方 →	家庭生活は自分の役割りでなければ何かを存なければ今までの自分の自分で自分の明確に自分のもとに依存する。 整えるように母親に自分のこころ身自立する。	手入れ，ほこりのブラシ等をかけ，ほころびの直し方，簡単なつくろい方，使用をさせる。 ほころびの直し方，衣服のなおし方，使用を教える。	衣服の整理・整とん 衣服の収納と整理・整とんすんの整理・整とん
略	下着のせんたく：1.下　着 2.せんたく →	家庭生活調理事の担当者（特に多くの仕事をにおいて母親の仕事を分担させ，自分のこころ）	着方，着替えの選び方，下着の購入の基準，下着の選択，物の購入態度	下着の収納 整理・整とん
略	便利なふくろ：1.いろいろなふくろ 2.ふくろ作り ミシンぬい：1.ミシンの扱い方 2.ぬい方 3.小物作り →	便利な袋や小物の作り方を習得し，それを活用して自分の生活をよりよくしようとする。 家庭生活が豊かになるようにと，弟妹のこころの強さを作ってやること。また，母親のようすを作って，家庭のようすをよくしようとする。	製作の学び方，製作の基礎・基本，製作の通して，衣服の消費態度，ミシンの使用にあたっての基本，物の選び方，購入態度，物の扱い方，物の手入れ，物の保管，物の整理・整とん	くず入れ， 整理ぶくろ作り

(三) 指導内容の系統化・構造化を図りまた、児童の実態に応じて、内容の重点化を図る。

このことについては、学習指導要領及び指導書・教科書等を熟読し、各領域各学年、各題材の目標内容を検討し五年から六年への系統性・発展性を研究するため、表3・表4に示すような関連表を作成し、研究を進めることがたいせつである。

これらの表を分析検討することによりどの内容のどの点はどう扱うのが効果的なのか知る手がかりとなると思う。

また、自分が現在指導している内容は家庭科の指導内容全体のどの部分に位置しているかをは握することができ総合的に学習させるのに効果的である。

(四) 授業実施後の反省をし、領域や題材の配例、指導時数の配当など、より適切なものに改善していく。